

令和 4 年度 学校評価シート

学校名： 県立和歌山高等学校

校長名： 中村 栄作

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

スクール・ポリシーに示す「6つの力」
 「主体的に学びに向かう力」、「自ら思考・判断し実践する力」、
 「ルール・マナー、安全・安心を守る力」、「多様な個性を尊重し協働する力」、
 「基礎的な学力」、「創造的な活動を通して個性を表現する力」を備えた生徒の育成

学校評価の公表方法

本校ホームページ上で公表

現状・進捗度

| | | |
|---|------------|---------|
| A | 十分に達成している。 | (80%以上) |
| B | 概ね達成している。 | (60%以上) |
| C | あまり十分でない。 | (40%以上) |
| D | 不十分である。 | (40%未満) |

自己評価（分析、計画、取組、評価）

| 番号 | 計画・取組 | | | 評価（3月17日現在） | | | |
|----|---------------------------|----|---|--------------------------------------|-----|--|--|
| | 重点目標 | 現状 | 具体的取組 | 評価項目と評価指標 | 進捗度 | 進捗状況 | 今後の改善方策 |
| 1 | スクール・ポリシーの浸透 「6つの力」の育成 | C | 教員それぞれが「6つの力」のうち3つの育成を目標に掲げ、具体的方策を立て取り組む。 | 項目を各教員の目標、方策とその自己評価とし、指標はその評価結果とする。 | B | 各教員が「6つの力」のうち3つの育成を自己申告書の中で目標として掲げ、具体的方策を立て取り組み、自己評価まで行った。 | こうした取組の継続と徹底が肝要である。もって「6つの力」の育成を進め、スクール・ポリシーの更なる浸透を図る必要がある。また、その浸透は、生徒、教職員はもとより、保護者や地域の方々にも広がるよう努めなければならないと考えている。 |
| | | | 生徒への種々の指導場面や各種行事等の機会に、「6つの力」の重要性を訴える。 | 項目を校長の全式辞とし、指標は「6つの力」について触れた割合とする。 | | 校長の式辞やアセンブリーでの講話等の中に「6つの力」に絡めた内容をふんだんに取り入れ、生徒及び教職員の意識を高めた。 | |
| 2 | 学びに向かう目的・意欲の確立 | C | 「産業社会と人間」の授業において、自己分析の機会と各種職業の研究を充実させる。 | 項目を生徒の進路目標・夢とし、指標はそれが定まった生徒の割合とする。 | C | ベネッセと連携し、生徒の分析と理解に努めたが、科目選択の指導に傾倒しており、進路目標を定めるに至る生徒は増えていない。 | ベネッセ等、業者がもつシステムやノウハウを有効活用し、生徒の自己分析を一層進めたい。また、個々の生徒に対応した、よりきめ細やかな指導ができるよう、1年次は25名以下の少人数クラス編成とし、それぞれの進路目標・夢が明確になるよう支援する。 |
| | | | 校外模試等の機会を有効に活用して、基礎的な学力の定着度を確認し、自覚を高める。 | 項目を基礎的な学力の定着度とし、指標はそれを自覚した生徒の割合とする。 | | ベネッセと連携し進めた生徒の分析結果は、教職員で共有したが、生徒が自覚するには至らず、工夫と努力を継続する必要がある。 | |
| 3 | 本校教育の特色の強化 とんがった教育への挑戦 | C | 外部講師の招聘等、校外教育資源の積極的活用とともに、各種行事の企画を充実させる。 | 項目を校外教育資源の活用度とし、指標はその活用度の昨年度比とする。 | B | コロナ禍の難しさはあったが、専門学校等と連携するなどし、学習の充実を図った。また、体験学習旅行に美術館見学を組み込んだ。 | 総合学科の魅力である豊富な選択科目を、「創造的な学びの充実」をキーワードに大幅に見直し、令和5年度入学生を迎える。また、同年度の募集定員が1学級増えるこの機会を捉え、教諭の増員を得て、本校教育の特色・魅力の更なる強化を実現させたい。 |
| | | | 学校運営協議会に芸術表現・保育・食系列の充実には有為な委員を加え、提言と実働を求める。 | 項目を学校運営協議会の提言による新たな取組とし、指標はその数・質とする。 | | C | |

学校関係者評価（10月19日実施）

○授業評価について

新学習指導要領に基づいた授業展開を進める中で、その目標設定や取り組み状況等について、全校生徒から得た評価に基づき協議を行った。

また、今年度から年次進行で導入していくことになった観点別学習状況の評価についても、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理し、適切に取り組めており、授業改善に繋げるには一層の、かつ継続した工夫と努力が求められるものの、概ね円滑に移行できているとの評価を得た。

加えて、主体的な学びの充実やキャリア教育の更なる活性化等についても意見をいただき、今後も不断の改善に努めなければならないと認識している。

○学校評価について

学校評価の結果に基づき協議いただいた。その中では、総合学科の特徴を生かしているとの意見もいただいたが、一方で、キャリア教育を今後更に推進していく必要があるとの指摘も受けた。

また、WAKA フォーラムや和歌山高校展をはじめ、各種学校行事等にも参加・見学していただき、それぞれ評価を得た。その評価は肯定的なものが主であったが、より一層広報に努める必要があるとの意見も出され、それは生徒の自己肯定感を高めることにも繋がることの助言を受けた。

更に、こうした他校にない取組や地域活動等、本校の特色を強める取組を引き続き大切に育てていってほしいとの意見もいただき、課題の再認識とともに学校運営への勇気を得た。